



CITY OF NAGASAKI

メッセージ

このたび、「国分寺市平和祈念式」の開催を迎えるにあたり、長崎市民を代表してメッセージをお送りします。

国分寺市におかれましては、平和祈念式や平和祈念行事の開催など、市民参加型の様々な事業に取り組まれていることに心から敬意を表します。

1945年8月9日午前11時2分、長崎の街は一発の原子爆弾により、一瞬にして壊滅的な被害を受け、その年の終わりまでに、24万人の市民のうち15万人が死傷しました。辛うじて生き残った人も心と体に深い傷を負い、今なお、多くの方々が放射線による後障害に苦しんでいます。

被爆者をはじめとする長崎市民は、このような悲惨な体験を世界中の誰にも二度とさせないために、核兵器のない世界の実現を訴え続けてきました。

今年は被爆から80年、そして第二次世界大戦の終結から80年の節目の年です。国際社会の対立や分断が深まり、核兵器使用の脅威が高まる今、これまで先頭に立って核兵器廃絶を訴えてきた被爆者のいない時代が刻一刻と近づいています。こうした中で日本被団協のノーベル平和賞受賞を追い風に、被爆者からの平和のバトンを、世代を超えてしっかりと繋いでいくことが肝要です。

長崎市は、これからも核兵器のない世界の実現を訴えてまいります。

国分寺市の皆様におかれましては、この被爆瓦を長崎との平和と友好の懸け橋にしながら、そして次の世代にしっかりとバトンをつなぎながら、共に歩まれることを祈念いたします。

結びに、主催者の皆様方をはじめ、本日ご参加の皆様の今後ますますのご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。

令和7年8月15日

長崎市長 鈴木 史朗